

2025年1月22日
株式会社SVPジャパン

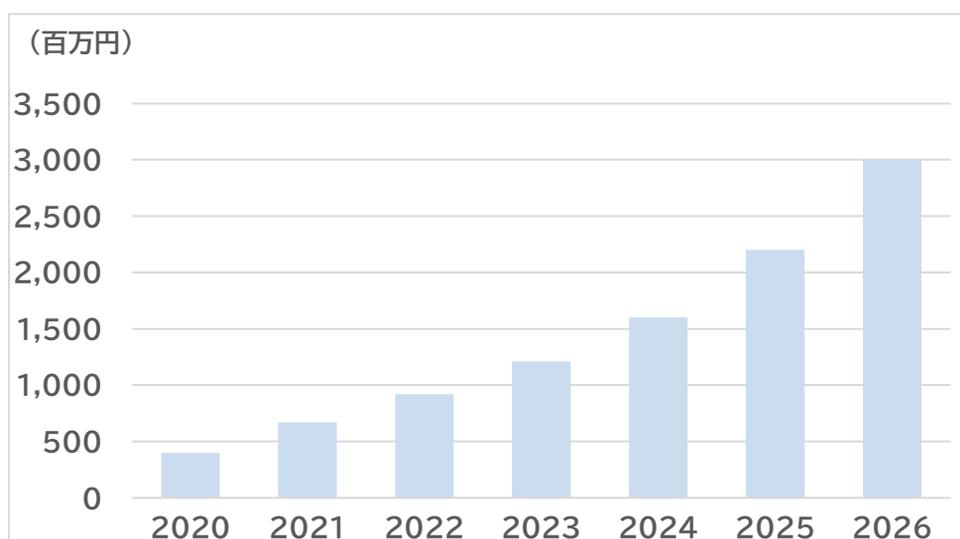
SVP注目市場分析 「スマート水産業」を公開

～効率化と持続可能性を追求する漁業と養殖業の未来～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「スマート水産業-国内市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■スマート水産業の国内市場



水産業では高齢化や人手不足、気候変動による漁獲量の変化が進行し、経営環境が厳しさを増している。この課題に対し、効率化や省人化、漁獲量の予測精度向上を目的とした「スマート化」の必要性が高まっている。水産庁もスマート化推進を支援しており、漁業や養殖業の現場でICT技術やAIを活用したシステムの導入が進んでいる。主要な技術には、多機能自動給餌機、飼育管理システム、漁海況情報サービス、ICTブイ、水中ドローンなどがある。これらの技術は、効率的な養殖管理や燃料・人件費の削減を実現し、作業負担軽減にも寄与している。

スマート水産業の市場規模は2023年に約12億円と推定されており、漁師の勘と経験に頼る従来の方法からの転換が進む中、年間30～40%の成長が期待される。2026年には約30億円の市場規模に達する見通しであり、さらなる普及と進化が見込まれている。

■スマート水産業の市場概況

スマート水産業の市場規模は、農業分野に比べると依然小規模である。調査対象を「操業支援システム」「養殖管理システム」「水産用ドローン」に分類した場合、養殖管理システムが約50%、操業支援システムが約45%を占めるとされる。特に、多機能給餌器や飼育管理システムが中心となっており、水産用ドローンは採用が少ないものの、潜水業務代替のニーズが高く、用途の拡大が期待される。

参入企業の動向では、パシフィックシステムは「養殖日誌クラウド」で効率的な養殖管理を支援。福伸電機は多機能給餌器「Smart Feeding System」で精密な給餌を実現。ライトハウスは船団運営支援システム「ISANA」で操業支援システムを開発。その他、NTTコミュニケーションズやKDDI総合研究所、スタートアップなど、幅広い企業が参入している



■本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造



←レポート全編を見る クリック
※本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

■購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



■ 次回のテーマ

2月のテーマは「陸上養殖設備」と「DTC遺伝子検査サービス」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com